

「農業を通じた社会の安定と雇用への貢献・
アフリカにおける笹川アフリカ協会 30 年間の軌跡」
シンポジウム
ケニヤッタ国際会議場(KICC)
安倍総理挨拶

笹川陽平会長，本日はお招き頂きまして，心より光栄に存じます。

アフリカ諸国の多くが農業振興に力を注ぐ今日，振り返って，SAA・笹川アフリカ協会が示した先駆性，努力には，まことに偉大なものがあつたと思います。

アフリカではかつて，単一作物を輸出向けにつくることが，すなわち農業だという理解が，ごく普通だったと聞いています。

それに対し SAA は，農業を強くしてこそ民生は安定すると，早くから説いて来られた。

ロープを畑に張り渡し，真っ直ぐな線をつくって種をまく，そんなやり方を広める実践から始められたそうですね。

今までに 18 カ国で活動され，本年 30 周年を迎えられました。心よりお祝いを申し上げますとともに，ルース・オニヤンゴ教授には，SAA を率いてこられたご尽力に，日本国民を代表し，深く敬意を表します。

創設者の笹川良一先代会長は、きっとアフリカのどこか、草葉の陰で、目を細めておられるでしょう。

存命なら 102 歳になっていたはずの、「緑の革命」の父、ノーマン・ボーローグ博士も、先代会長と肩を叩きあって、本日の集まりを見ておいでかもしれないと思います。

1980 年代に、アフリカを襲った飢饉の悲惨さは、私の臉に焼きついていきます。

当時 87 歳だった先代会長、72 歳だったボーローグ博士が、惨状を見て、矢も楯もたまらず動き出されました。

2 人の先達にあった、世の人の不幸を、わがことと思う感性の瑞々しさに、私は、胸打たれるものを覚えます。

しかも笹川現会長や、オニヤンゴ教授が、仕事を引き継ぎ、充実に次ぐ充実を、活動に与えてこられました。

農民一人、ひとりを強くし、賢くして、自立させること。種を植えてから、市場に適正な価格で売るまで、一つながりの「バリュー・チェーン」を育てなければならないこと。政府を巻き込み、専門家の教育を進めることが、同時に必要だということ。

一貫してそれらの大切さを説き、実行されたのが、SAA の活動でした。

あたかもそれは、TICAD 本年のモチーフ、「クオリティ・アンド・エンパワーメント」を、20 年以上先取りし、実地に移されていたのだと思います。畏敬の念を深くいたします。

「あらゆる新技術は、すべて農民の手に」と言って、ポーローグ博士は息を引き取られたと伺いました。

その言葉に忠実に、今もエチオピア、マリ、ナイジェリア、そしてウガンダで続けておられる SAA のご努力、「未来に食を」の営みが、さらなる実を結び、花を開かせることを信じて疑いません。

皆さまのご尽力に改めて心より敬意を表し、挨拶の結びとします。

ありがとうございました。